

S プロジェクトサポート内容と今後のサポートモデル

— シニアが学校にOSSをサポートする —

NPOシニアSOHO横浜・神奈川 副代表理事 村田 光正

QYQ06364@nifty.com

キーワード：OSS, OSP, 教室ネットワークサーバー, 生徒パソコンファイルサーバー, ネットブート, USBブート, デュアルブート, NPO, シニア, インテグレーション企業, サポートモデル

1. サポート内容の概要

1. 1 サポートのスキーム

OSPパッケージの普及展開に貢献するために、NPOとして参加を目指し技術力を補完するために専門インテグレーション企業と連携したサポートスキームを構築する。

1. 2 サポート対象校とサポート内容

サポート対象校は下記2. 学校別サポート内容にある6校である。高等学校が大半である。私立が4校で公立が2校である。

サポート内容は、2校を除いてコンピュータ教室へのOSPパッケージ導入である。

OSPパッケージをCD-ROMブートで使用する学校は、1校（福島県立福島高等学校）で他の4校はUSBブート、ネットブート、HDDブートの内一つのブート方式である。教室ネットワークサーバー、生徒パソコンファイルサーバーを別々に構築運用する学校が3校である。

教科情報でのプログラミング教育用のソフトの他に、英語、数学、音楽、美術などの教科での利用のためのアプリケーションソフトをカスタマイズした。

OSSの校務処理への利用は、具体的なサポート対象はない。

1. 3 サポート体制

NPO法人 シニアSOHO横浜・神奈川（略称：SVYK）が委託を受け、専門インテグレーション企業であるオープンソース・ジャパン株式会社（略称：OSJ）に一部を再委託した。OSJには、青森オフィスと宮崎オフィスがありそれぞれ青森県と宮崎県の学校サポートを担当した。

各校へは、月一度（必要の場合は追加があり）の訪問サポートを行い、並行してMLおよびネット commonsによる遠隔サポートを実施した。これにより各校およびサポートメンバーの情報伝達の迅速性と情報共有が確保できる。

2. 学校別サポート内容と導入コンセプト

2. 1 八戸工業大学第一高等学校

OSP基本パッケージのネットブート化、LDAP認証（サーバー/クライアント）、samba,netatalkによるサーバー立ち上げ、学校が行ったアプリ追加(Squeak)を含む最終システムのカスタマイズ作業を行った。

コンピュータ室が三つあり、1年生がUNIXによるOSSを利用する授業を行い、2年生はMS Windowsを3年生はMacintoshを利用する授業を行う。

いろいろなOSを体験することができる。

2. 2 弘前学院聖愛中学高等学校

OSP基本パッケージのUSBブート化、LDAP認証、Windows MeとOSPのデュアル活用の実施、サーバーマウントのショートカット作成等に関する学校における専門的な研修とMLおよびネット commonsによる遠隔サポートを行った。

生徒パソコンは主メモリー128MBのものがあり、Debian LinuxとWindows Meとを起動時に切り替えてOSSを利用する。USBメモリー起動は基本パッケージとしてはできているが、将来は最終カスタマイズをしたUSBを生徒パソコン本体の中に収納しCD-ROMやHDDの故障などのトラブルから切り離れた利用方法を行う。

2. 3 福島県立福島高等学校

音楽（作曲）の授業のためにRosegardenとAudacityソフトのインストール、クライアント側からネットワークプリンタ利用等の内容をカスタマイズしたCD-ROMを作成する。Rosegardenより音楽を正常に再生することが12月末までにできず、CECの支援により実現する。USBブート化は生徒パソコンがBIOS非対応のため中止する。



写真1 コンピュータ室



写真2 GIMP 作画画面

2. 4 福島県立盲学校

音声読み上げソフトで利用するための検証、安全なファイルサーバー構築、動画編集とDVD化実施支援を行った。音声読み上げソフトは、当初 Orca に組み合う TTSynthe を入手し音声（英語）を発生させたが日本語での発生には日本語ファイルに欠陥がありできない。次に IBM の推進する Desktop Software Developers Kit(SDK) (package : 295US\$) で日本語ができる見込みがあることが判明したが、有料のため導入を中止した。

安全なファイルサーバー構築としては、CentOS によるサーバーを構築した。動画編集とDVD化では、Cinelerra (入力は AVI 形式のみ) で動画編集後に出力 rendering するソフトが見当たらないためにDVD化は中止する。

2. 5 日本工業大学東京工業高等学校

USBブート化、クライアント側からネットワークプリンタの利用、サーバーに CentOS 導入稼働実施、C 言語利用 (Eclipse) の追加等を行った。

コンピュータ教室は、検定試験会場として使用があるのでOS S 利用による影響を受けない利用方法としてUSBブート方式としている。

2. 6 宮崎第一高等学校

OSP基本パッケージのデュアルブート化、OSP基本パッケージへのソフト追加もしくはバージョンアップ方法の技術支援、ブラインドタッチソフト・オーラルソフトの導入、GIMP/Blender/Cinelerraソフトの基本的操作技法支援、OOoの外字登録・フォント登録方法、メール/Webサーバー立ち上げネットワークプリンタ稼働等を行った。USBブート化は生徒パソコンがBIOS非対応のため中止する。

メール/Webサーバーにより、生徒に校内において疑似体験が可能になる。また生徒への掲示板機能や連絡機能としての利用や、制作した作品の保存・提示機能としても利用する予定であり授業でのIT支援環境として効果が期待できる。



写真3 教室内 Web 画面



写真4 GIMP 操作説明用用例

3. サポートビジネスモデル

3. 1 サポートビジネスモデルに対するコンセプト

NPO法人の特性を生かしたサポートモデルを構築する。サポートをボランティア（無償またはほぼ無償）およびビジネス（有償）の組み合わせで実施する。また専門インテグレーション企業（OSJ）と連携したサポートスキームは継続発展させる。サポートモデルは小単位とし、学校が必要とする内容をタイムリーに利用しやすく提供する。

導入運用サポートコンサルは会費会員制として運営する。MLおよびネットコモンズによる遠隔サポートの活用性を向上させ遠隔サポートをサポートビジネスの重要な要素とする。賛助会員、支援企業・団体を募集してサポート事業への参加貢献および資金支援をしていただくことにより採算を向上する。

3. 2 今後のサポートモデル

	SVYK	SVYK・OSJ 連携	OSJ
OSS 無料相談・無料デモ、研修講座、出前講師	<input type="checkbox"/> ○	—	—
導入運用サポートコンサル	<input type="checkbox"/> ○	○	○
コンピュータ教室サーバー構築	○	○	○
コンピュータ教室生徒パソコン用ソフトカスタマイズ	○	○	○
遠隔サポート	○	○	○
授業支援	<input type="checkbox"/> ○	—	—
OSS 開発参加および支援	<input type="checkbox"/> ○	○	○

表1 今後のサポートモデル

記号；□⇒ボランティア、○⇒ビジネス

4. 課題

サポート事業運営経費の確保、勉強会・研究会による技術スキル向上、マルチメディア（写真画像、動画、音声・音楽など）への対応、遠隔サポートの実効性向上、校務処理への対応などが今後の課題である。